

ソーシャルワーカーデー 2023 in あいち

ソーシャルワーカーの活動の普及推進を目的に、2009年より「海の日」をソーシャルワーカーデーとし、毎年全国各地で様々なイベントが行われています。愛知県では毎年7月に、日本ソーシャルワーク学校連盟・愛知県社会福祉士会・愛知県精神保健福祉士協会と共催しています。

今年は「ヤングケアラーへのソーシャルワーク実践」をメインテーマに掲げ、8月29日(日)に会場である愛知教育大学とZoomでのハイブリッドにて開催しました。当日の会場には学生を含め80人を超える方に参加いただき、オンラインでは60名ほどの参加がありました。

前半の基調講演では、日本福祉大学の湯原悦子先生より「ヤングケアラーをめぐる動向 成果と今度の課題」というテーマでご講演いただきました。

ヤングケアラーに関する政策の動きについては、目に見えて整備されつつあるのだと知ることができた一方で、自治体ごとの取り組みには温度差があり、どの地域でも整っているとは言えず、まだまだ課題があることを実感しました。その課題に対して、ソーシャルワーカーとしてソーシャルアクションが求められているということが伝わってくる内容でした。

「実践報告」では、各職能団体の代表の方と当事者支援団体の方より、それぞれの立場における実践を報告いただきました。

当協会からは偕行会城西病院の福田充希氏に「若者ケアラーへの支援実践報告」と題し、若年性認知症の母親への介入をきっかけに、ヤングケアラーである娘への支援チームの一員として果たす役割について実践報告いただきました。娘さんが話された「同年代の若者とと同じく仕事をしたり、結婚をしたりしたい」という希望が、当たり前のことが当たり前と思えないのがヤングケアラーである娘さんの置かれている状況であり、ヤングケアラーの方が抱える悩みなのだと教えられた内容でした。

愛知県社会福祉士会からは、愛知県教育委員会のスクールソーシャルワーカーとして勤務されている横田早苗江氏より、当初は介入の糸口が難しかったが、関係機関の多職種で連携・支援会議を行い少しずつ状況が変わっていったケースの報告がありました。このケースからは、多職種連携の重要性を改めて実感しました。また、愛知県精神保健福祉士協会からは、一般社団法人パーソナルラボの相談員として勤務されている朝倉美佳氏より、さまざまな課題が見える家庭において、時間の経過と共に変化する環境の中でも長期的につながり続ける伴走型の支援をされていることが伝わってくるケース報告でした。

最後に、NPO法人CoCoTELI 代表の平井登威氏は、自身がヤングケアラー当事者であり、その原体験から精神疾患の親を持つ若者支援活動として活躍されており、制度の活用

や色々な支援機関に繋がるだけでなく、当事者にとっての「コミュニティー」の大切さを感じさせられる報告でした。

ヤングケアラーである当事者は、まだまだ若く、これからたくさんの可能性を秘めています。その可能性を摘み取らない為にも、ソーシャルワーカーは「早期に気づき」「寄り添い」「頼れる存在・話を聞いてくれる存在・一緒に悩んでくれる存在」として関わっていくことが求められています。加えて、当事者が生きやすい社会を作っていくことも我々の役目なのだと感じました。明日からの実践に、今日気づいたこと、学んだこと、感じたことを実践に活かしていけるようにしていきたいと思いました。

県民や学生にソーシャルワーカーの魅力を伝え、ソーシャルワーカーの普及や活躍を通じて県民の福祉が向上するように、関係団体と共に今後も様々な企画を推進していきます。

(文責 ソーシャルワーカーデー実行委員会 委員長 渡邊啓后)

